

## 学生たちの感想文から

学生たちは毎晩、一日のスケジュールを終えてから日記形式の感想文を書き、第22回訪日の記録とした。以下、その一部を紹介する。

**日付：5月29日（火）【1日目】**

**大学名： 清華大学**

**氏名： 杜秉霖**

期待に満ちた2時間のフライトを終え、この地に降り立つと嬉しさがさらに込み上げてきた。大阪の夜景からは神秘さと共に無限の活力が感じられた。

夕食のビュッフェの際、二つの点に感銘を受けた。一つめはその味の素晴らしさで、二つめはレストランの従業員のサービスの意識と態度である。彼らは常に笑顔で真心こもったサービスを提供していた。サービス業の本質はサービスであり、日本のサービス業が発展しているのにはそれなりの理由が確かに存在すると言わざるを得ない。彼らの真心に心を打たれた私は「ありがとう」の言葉とお辞儀を繰り返していた。楽しい環境や尊重の美德は他人を感化するもので、私たちもこうした環境の中、心からの感動を覚えた。

私の期待はさらに膨らみ、日本という国そして日本民族の特徴をより理解したくなった。

**日付：5月29日（火）【1日目】**

**大学名： 中国人民大学**

**氏名： 趙元培**

この日、長旅の末私たち一行は関西空港に到着し、その後京都のホテルでの宿泊となった。道中、ガイドから日本の47都道府県の概況についての紹介があり、私たちはおおよその理解をすることができた。京都の家屋はそのほとんどが低い様式となっており、この点からは古都としての京都の建築様式の表れと蓄積を垣間見ることができた。またガイドの紹介を通じて私たちは日本人の礼儀正しさと思いやりの伝統について知ることができた。幼稚園の頃から教えられる「他人に迷惑をかけない」との理念が日本人に根付いていることから、日本社会における礼儀正しさという気風が形成されているのである。

ホテルに到着後、私はまたルームキーや注意書きなどからホテル側のゲストへの配慮を感じた。細部を大切にすることで大事を成すことができるのであろう。

**日付：5月29日（火）【1日目】**

**大学名： 对外経済貿易大学**

**氏名： 王璐**

今の時刻は夜の23時15分、地下鉄、飛行機そしてバスを乗り継いでようやく新・都ホテルに到着した。日本については綺麗で洗練されているという印象を持った。街路ではゴミを見かけることはなく至るところが清潔で、部屋は小さいながらもスマートで、人への優しさと清々しさが感じられた。

明日は京セラと京都大学への訪問とのことで、本格的な訪問の初日をとても楽しみにしている。また沢山の収穫と共に京都についてさらなる知識が得られることを願っている。

日本に来る前までは、日本への知識は本やインターネットなどに限られていたが、今日こうして日本の地に降り立ちやっと日本への実感が得られた。今回優秀な先生方や学生達と共に未知なる美しい日本を知る機会が持てたことを心から光榮に思っている。

明日が楽しみだ。おやすみなさい！

**日 付：5月29日（火）【1日目】**

**大学名：北京語言大学**

**氏 名：張一帆**

今日は訪日初日で、私たちは全日空の便で日本を訪れた。

飛行機を降りた後の最初の印象は清潔というものであった。空港はとても清潔で、空気にも嫌な臭いはなかった。空港の敷地面積自体は北京首都空港ほど大きくはないかもしれないが、環境面については日本に学ぶ必要があると思った。特に預け入れ荷物の受け取り場所での「乗客の荷物へのやさしい取り扱い」は私たちが学ぶべきものだった。

空港を出ると清々しい空気を感じ、澄んだ夜空の星々や至るところの様々な植物は、見ていてとても心地良く、心が落ち着いた。

その後、新・都ホテルに到着した。ホテルの環境やサービスはインターネット等での話にあったとおりとても行き届いたものであった。これには日本が人気の旅行先である理由が分かった気がした。外国人旅行者にこれほど細やかなサービスを提供するのは決してどの国や民族でもできることではない。

飛行機内では耳鳴り等で体調が芳しくなかったが、飛行機を降りてからは、隣国の日本について自分たちの目で見て感じられることについて、改めてとても意義深いことであり、また必要なことであると感じるようになった。「目に見えるものは真実とは限らない」という人もいるが、自らの目で見て感じることをせず他人の話を鵜呑みにしては、尚更真実を知ることはできないのではないだろうか？

**日 付：5月29日（火）【1日目】**

**大学名：首都医科大学**

**氏 名：歐雯欣**

緊張、興奮、焦り、心配など様々な感情が入り混じっていた私はついに日本行きの飛行機に搭乗した。

全日空のキャビンアテンダントの素敵な笑顔は私の「複雑な」心情を多少和らげてくれた。日本は地理的に北方に位置しているが、ここの思いがけない湿度に南方出身の私は親近感が湧いた。日本に対しての第一印象は清潔さとやさしさであった。清潔な空港、やさしいサービス対応（ベルトコンベアの傍にとても整然と置かれたスーツケースには驚かされた）、人にやさしいトイレ、その他まじめで親切なガイドの雪美さん、そして同行の先生方からのお世話により私は次第にこの環境に慣れてきた。レストランでの夕食では日本の食事は冷たい物が多いと感じたが、幸い私は美味しく食べることができた。

大阪から京都までの約1時間半の道程はとても楽しかった。お腹がいっぱいで車酔いを心配していた私だが、先生方そして学生達の自己紹介で楽しい時間を過ごすことができた。ガイドの雪美さんからは京都は盆地で小さな町のような話があったが、まさしくその通りで、道中目にするのは低い家屋、古い建物や高速道路傍の工場で、いずれも日本の緻密ながらも「ひらめき」を失わない特長が示されていて、コンビニ、バス停、アパートなどの様式に興味を引かれた私は、これらの特徴的な建物を目に焼き付けた。

初日の旅はとても疲れたが楽しいものであった。明日からの正式な訪問では、これまで本やテレビで見してきたのと異なったより多彩な日本を目にすることができることを願っている。

**日 付：5月30日（水）【2日目】**

**大学名： 中国人民大学**

**氏 名： 胡心縁**

今日は本当にたくさんの収穫が得られた。

午前の京セラの見学に向かう際、車窓の外はほとんど低い建物(時折高い建物)だったが、それらの建物の窓はとも透き通っていた。小雨の降る中、8時過ぎの路上には傘をさしたサラリーマンの出勤する姿が見られた。

そして京セラの本社に到着し皆さんから温かい歓迎を受けた。私たちは2階に移動した。1階と2階は外部に開放されている。その後紹介ビデオの鑑賞により私たちは京セラの事業の発展、製品分野そして企業文化などについて理解を深めた。次いで私たちはファインセラミック館を訪れ同社の発展の歴史について見学をした他、京セラの創業者である稲盛和夫氏の資料館では、同氏の生い立ちや人生そして経営に関する理念である稲盛哲学について理解を深めることができた。同氏は思考の力を信じ、また無限の情熱が人々の前進の原動力になることを信じ、同氏の勤勉さや情熱で社会に貢献するという精神は彼の人生のあらゆる部分に徹底されている。これには多くの収穫が得られたと同時に感服させられた。

その後私たちは京都大学を訪れた。韓立友准教授からの解説を通じて私は、京都大学は革新、真実への追求による精神的天国のような学府だと思った。ここは先を見通す目を持ち、京都大学の学生のために純粋で自由な学術・思想環境を創造していた。学生達との交流もとても楽しく、最初は堅苦しかったのが、最後には別れを惜しむほどの美しい友情を感じることができた。

時間が経つのは早く、あっという間に京都での最後の夜となった。明日改めてこの文化的古都の持つ魅力が感じられることを願っている。

**日 付： 5月30日 (水) 【2日目】**

**大学名： 对外経済貿易大学**

**氏 名： 朱宸賢**

朝、私たち一行は京セラ社を訪れた。整然とした建物からは沢山の想像がかき立てられた。文系の学生にとって精密機器の製造原理を理解することは非常に難しいが、ガラスケースに陳列された様々なセラミック製品を目にし、人工膝関節の大きな役割、セラミックの当初の原料から高価な物質への変化、そして鮮やかな色の深海用の地震探査機などには大きな衝撃を受けた。これはどういった頭脳で作られるのか？京セラは当初の28名のグループからどのように現在の業界トップの位置に上りつめたのか？この点について私は創業者の稲盛和夫氏の自らの欠点と長所を強調するという人生哲学と大きな繋がりがあると思う。さらに驚いたのは、一部の日本の企業には芸術品のショールームがあり、今回幸いにも「漫步京都」の画展を鑑賞することができた。そこでは質素な色調ながらも大きな幸福感が感じられた。

見学の最後に私たちは社員食堂で食事をとった。ここは高級ホテル並のレベルで素晴らしい景色を見ながら食事をすることができた。丁度食事時だったため、同社の社員も続々と食堂に入り食事をとった。だが食堂の光景は、賑やかなながらも人の行き来がまばらで整然とした日本のレストランでよく見かけるものであった。

食事を終えた私たちは京都大学を訪れた。その途中で一つの川を見かけたがとても綺麗だった。京都大学では国際高等教育院の先生から京都大学についての詳しい紹介があったが、最も印象深かったのは学術の自由と緻密な研究という校風で、京都大学の学生が時計台に上りスローガンを掲げる「反体制行為」、公立大学の代表格として一つの銀行口座のみでの統一管理、教授の投票による学長選挙、リーダーになるのを嫌がる教授といった奇抜な光景、そして細胞の若返り、オランウータンの研究及びノーベル賞受賞者の数といったものにも驚かされた。

金融を学ぶ女子学生である私は、その後の学生との交流においても異なる国の学生の自由貿易や保護主義そして一帯一路、TPP等の発展モデルについての観点の違いを感じ、世界経済の動向を見る上でのあらたな視点が得られた。

ホテルのベッドに横たわり可愛らしいお姉さんや自転車に乗ったお兄さん等の姿を思い起こした。あの若々しさは本当に絵になると思った。

**日 付： 5月30日（水）【2日目】**

**大学名： 首都医科大学**

**氏 名： 蓋峰**

今日は京都での2日目で、主なスケジュールは二つあった。

午前からお昼の時間までは京セラでの見学であった。まず私たちは京セラ社の製品を見学し、ソーラーパネルから電子チップ等のセラミック技術がいずれも情報、環境、自動車等各方面で応用されている様子を目にした。その中で最も感心したのは、同社が代々製作してきた人工関節が、技術の発展によりその適用性が大きく高まり、臨床医療において広く使用されている点であった。その後私たちは京セラ創業者の稲盛和夫氏の経営理念である「アメーバ経営」、「リストラなし」、「人間として正しいことを正しいままに貫く」といったものから多くの収穫を得た。私はこれまで企業経営について漠然とした理解しかしていなかったが、稲盛和夫氏のこれまでの足跡から「理念」というものの企業の発展における指導的そして決定的役割を理解することができた。

午後私たちは京都大学を訪れ同大学の学生との交流を図った。私たちのグループは日中両国の環境問題について共に討論し、まとめと報告を行った。その際、日本もかつて大規模な環境問題に直面していたが、全国民の努力により改善を図ったとのことで、私にとっての最大の収穫は、環境問題において最も重要なのは社会全体の環境意識に対する誘導であることが分かったことである。

京セラの歩み、京都大学の自由な学風などはいずれも印象深かった。今後の旅でも多くの収穫が得られることを願っている。

**日 付： 5月30日（水）【2日目】**

**大学名： 首都医科大学**

**氏 名： 林慧欣**

今日は正式訪問の初日で、私たちは朝早くに起き準備を整えた後、指定の時刻に集合しこの日の訪問を始めた。

最初の目的地は、稲盛和夫氏が1959年に創業した京セラである。初期の技術投資製造業者から今日では電気通信関連、医療分野等にも精密部品を提供するなど、同社は創業以来一度の赤字も出していないことに私はとても驚かされた。だが同社の紹介を聞いた後私はその理由が分かった気がした。一つめの理由は京セラの哲学と理念である。稲盛ライブラリーに足を踏み入れると、「Commit to what is right as human beings (人間として何が正しいかをものごとの判断基準とする)」の言葉を見かけた。こうした人や心をベースとした経営は、人員を削減することなくオイルショックを乗り切ることにもつながった。こうした点からは心の力の大きさがわかる。二つめの理由はアメーバ経営である。これは稲盛氏が生み出した経営モデルで、会社全体を複数のアメーバ組織に分け、独立採算をするというものである。こうした経営権の委譲方式は企業規模の拡大につながった。三つめの理由は最良を目指すという理念である。陶磁器の技術は中国を源としているが、日本は学び手本とする過程において、さらに深く突き詰め改善を加えるなど、活用法を徹底的に研究し磨きをかけている。

同様の精神は、午後に京都大学で教授のお話を聴いていた時にも感じられた。例えば京都大学の多くの教授は論文の数やインパクトファクターに関するノルマはなく、自らの興味に基づく研究を行うことができる。また学生の論文への要求は高く、修正に何年も費やした後に発表を行う。こうした中国以上の厳しさは、将来的に医学研究を目指す私にとって驚くべきものであった。この点は私たちも学ぶべきだと思う。全身全霊で研究に打ち込んでこそ、人類に幸福をもたらす貢献ができるのである。

紹介の後、私たちはグループ毎に京都大学の学生達と討論を始めた。私たちのグループのテーマは環境で、私は中国人学生の代表として双方の学生や先生方の前で新エネルギー、ゴミの分類また防護林等を含めた討論の総括を行った。京都大学の学生との意見交換の過程は私自身とても楽しかった。

経営理念であれ、また日本の若者の声であれ、今日は日本の独特な部分を知ることができた。その核心部分を吸収し長所に学ぶことで、中国の国有企業が長続きしない問題の解決にも運用できるかもしれないと思った。

## 日 付：5月30日（水）【2日目】

大学名： 外交学院

氏 名： 王思嘉

午前はフォーチュン・グローバル500にランクインする京セラを見学し多くの収穫が得られた。創業者の稲盛和夫氏の稲盛経営12カ条もまた大いに含蓄があった。経済が不安定な時期に一人の従業員も解雇することなく今日まで発展を遂げてきたその道のりは非常に偉大なものである。そして同社の事業が電子部品、医療、自動車、航空、宇宙、テレビ・コンピュータ、携帯電話・通信、ジュエリー・アクセサリー等様々な分野に及んでいることにはとても驚かされた。また同社が追求する高効率、省エネ、エコ対策なども学ぶべきもので、社員食堂においてもベルトコンベアでトレイが回収され、以降の洗浄段階に運ばれるなど自動化レベルが非常に高かった。

午後は京都大学を訪れ、韓准教授の解説に衝撃を受けると同時に、視野の違い、思想の自由度の違い、精神的追求の違いを感じた。一方は全人類への貢献のため、もう一方は重要雑誌への論文発表のため、こうした両者の違い、広さと狭さは明らかである。自由な研究、革新や全人類の共同事業の発展に尽力する京都大学が育成する学生はまた同様に優秀であり、その点は彼らとの会話から感じる事ができた。また京都大学は施設面も整っていて、キャンパスに入るとすぐこの学風を色濃く感じる事ができた。今後も異国の同年代の人々との交流を通じ、彼らにとっての中国や世界の様子を知る機会が得られることを願っている。

## 日 付：5月31日（木）【3日目】

大学名： 中国人民大学

氏 名： 耿思博

この日のスケジュールは楽ではあったが時間的には長く、それぞれの場所に文化的内容が含まれていた。日本に来て三日目だが依然として心は興奮と楽しさに満ちていて、同行の彼らは私の今回の旅をより意義深くしてくれている。

雨が降った後の湿った空気の中、私たちは嵐山を歩き、周総理の詩を拝読した。周総理の詩からはリーダーとしての生活や人生、理想に対するおおらかさと粘り強さが感じられた。空山新雨后、天气晚来秋（人気のない山に新たに降った雨が上がった後、天気は夕暮れになるとすっかり秋の気配）、山中の清らかな風からは多少の涼しさと秋の気配が感じられ、両側には木々が生い茂り、野花が彩りを添える。こうした自然景観は中国では比較的好く目にするが、日本でこうした景色を改めて見るととても身近に感じられた。

山の風に吹かれながら私たちは高台寺での茶道と座禅体験に参加した。文化は一杯の茶に例えられ、幾度も研磨を繰り返し、素早く攪拌し、お湯で淹れた後に文化の味わいが茶の香りのように立ちこめる。茶の口当たりは甘さの中に若干の苦みがあり、苦みの後に甘さが来る。そして枯れていく。三度の茶の味わいは人生の味わいと似たものがある。

その後、山中の鳥のさえずりや雨が木の葉を打つ音を聞きながら、私たちは高台寺の住職の指導の下で座禅を体験した。座禅は私にとっては辛いものであった。静かに呼吸を整え心の声を感じなければならない。しかしこうした訓練は自分の心と向き合うものであった。瞑想していると自分の心の声が聴こえたような気がした。住職が鈴を鳴らし、私

たちが座禅を始めると、精神が身体を離れ自我を超越し、その後住職の「鞭撻」の下、精神が四方から再び身体に戻った。これは説明するのが難しい奇妙な感覚であった。

座禅を終えた後住職からは、座禅は孤独と向き合う方法の一つであり、俗世に立ち、人の世で奔走するうちに心は往々にして孤独に陥りがちだが、座禅をして自らの心を本来の姿に戻すことで孤独と向き合うことができるとのお話があった。

最後に私たちは箱根での温泉体験のため新幹線で小田原に向かった。その車内で私は今回の日本での経験について初めて振り返り、改めて日本の素晴らしさを感じると同時に心を奪われた。

**日 付： 5月31日（木）【3日目】**

**大学名： 北京語言大学**

**氏 名： 潘思妙**

今日のスケジュールは比較的楽で、午前は嵐山の見学と茶道・座禅体験で、午後は新幹線移動の末、箱根の温泉旅館に到着した。

午前の活動では座禅が印象深かった。私はかつて『自控力(自己制御力)』という本で「座禅」に似た概念の内容を見たことがあった。その本では「瞑想」と呼んでいた。座禅は心を落ち着かせることができ、自分に対する制御力を高めることができる。これから先こうした方法を多用したいと思った。

食事の後は新幹線での移動となった。新幹線の噂はかねがね耳にしていた。中国の高速鉄道よりもスピードが速いとのことだったが実際に体験しても正しくその通りで、加速がとても良かった。座席間の距離も大きく、背もたれも大きく調節することができた。またトイレも非常に清潔で高級感があり、手洗いの蛇口以外にも流し台洗浄用のノズルも備わっているなど先進的なものであった。

**日 付： 6月1日（金）【4日目】**

**大学名： 清華大学**

**氏 名： 李安南**

テルモの見学では、医療技術企業の建物にこれほどの芸術性があるとはまったく予想していなかった。建物内部はとても芸術的雰囲気があり、至るところに油絵があるだけでなく、様々な彫像もあり、自然と精神的な満足感が得られるものであった。その後の実際の血管内治療の練習体験においては、たとえこうした情報をリアルタイムにフィードバックする設備があっても、医師にとってこうした手術を成功させるためには何百・何千回もの練習を行う必要があることを知った。そのため、情報技術を学ぶ私は人工知能の医療分野における応用の将来性についてははっきりと感じることができた。機械がアルゴリズムを通じて医師に対して情報をリアルタイムにフィードバックするだけでなく、これらの情報を自ら理解し判断のサポートができれば、医師の手術における負担を大きく減らすことにつながるのではないだろうか。あるいは、これが将来の方向性なのかもしれない。

この他特筆すべきは、テルモ社の細やかな準備ぶりである。これらは多くの場面に示されていた。例えば、私たち一人ひとりに自社製品をプレゼントしてくれた他、ゲートには日中両国の国旗が並んで掲揚され、中に入ると歓迎の横断幕が掲げられていた。またさらに感動したのは、同社の代表取締役会長が私たちと会うためにわざわざ東京から駆けつけてきてくれたことである。

それ以外に検討していくべき点としては凸版印刷における「印刷」への幅広い定義がある。その定義ではARやVRを将来的な「印刷」に組み込んでいる。これは非常に新しい考え方だと言える。

**日 付： 6月1日（金）【4日目】**

**大学名： 对外経済貿易大学**

**氏 名： 關浚竹**

朝8時に箱根湯本温泉の箱根天成園を出発した私たちは、その後テルモ社に到着した。そこは簡素ながらも高級感のある建築様式で、庭園のような同社の業務環境にはとても驚かされた。ここは医療を通じて社会に貢献することを企業理念とした同社が医療従事者の能力向上のための研修や技術研究を行う場所である。そして自然と調和した建物には高性能の精密医療機器が配備され、多くの医療従事者が様々な医療現場をシミュレートした環境において研修を行い、さらに最先端の医療技術の研究が行われている。私は医療従事者の大変さを強く感じた。そして一人の優れた医療従事者の育成には多くの心血が注がれており、同社が彼らの能力向上に専心することで人類の生命や健康に貢献していることに私はとても感心した。真の医療技術研究には静かな環境そして善良な心や動機が必要であり、テルモはこれらの実現のため絶えず努力をしている。

凸版印刷博物館に関して最も印象深かったのは、宣伝媒介の変化であった。壁画の図案から紙上の文字そしてカラープリントまで、歴史の記録における人類の絶え間ない進歩を見た思いがした。

その後住友商事を訪れた。持続可能な発展についてのお話や、サステナビリティ推進部の大野茂樹部長からの挨拶そして貞川晋吾シニアアナリストからの住友商事の概況についての紹介の後、同社の3名の中国人スタッフと交流を図った。その中で最も印象深かったのは宋誠超氏の日本の企業文化についての考えで、同氏からは、日本企業は長期的な発展、多元的な目標、チームワークを重視しており、こうした経営理念は温泉、徳川家康そしてスポーツ文化といった日本文化の影響を受けている。住友商事は常に時代の変化に先んじ、新たな価値を創造し、幅広く社会に貢献する世界的企業グループとなることを目標とし、明確で厳しい行動指針を有している。そして明確な理念や目標は住友商事の方向性をはっきりと示している、とのお話があった。ある女性スタッフからは日本企業で働く上での性別問題の影響についてお話があり、日本の女性は自立していることから自ら子どもの世話をする。よって普段の仕事や家庭環境構築に部分的な難題が存在するが、気持ちを新たに生活におけるバランスをとることが重要であるとのことであった。

今日のスケジュールは詰まっていて、タイプの異なる3つの企業を見学した。彼らに共通する特徴は、自らの事業に専念し、革新を原動力とし、また人類の進歩を全体的目標として事業展開をすることで企業を大きく成長させているということである。

今日は沢山の収穫が得られた。

**日 付： 6月1日（金）【4日目】**

**大学名： 北京語言大学**

**氏 名： 何沛霖**

今日はテルモ、凸版印刷そして住友商事の3社を見学した。

実は事前に資料を通じて多少の勉強はしていたが、これらの企業の事業内容や理念といったものについては充分理解することはできていなかった。しかし今日の実験の体験により、これらの企業は私が想像していたよりも遥かに実力のある企業であることを知った。

はじめにテルモについて、まず建物の外観がとても印象深かった。私の企業というものへの印象は鉄筋コンクリートのオフィスビルである。だがここは庭園の中の和風建築のような外観と至るところに美術品が置かれた内部空間で、優雅な環境により従業員にどうあるべきかを教えるという会社の形態のもう一つの可能性を見た思いがした。この他、同社の模擬居宅はとても素晴らしかった。ここでは在宅患者への看護行為への評価を行うためにわざわざ患者の模型の視野と同じ高さになるように家具が置かれていた。こうした細やかさからは、医療企業の患者への思いやりが感じられた。日本に来る前、私は日本企業がどのように自らの製品のユーザー体験を高めているのか気になっていたが、今

回その答えが見つかった。テルモでは掌の感覚が鈍った患者の状態を体験する手袋や白内障患者の状態を体験する眼鏡を使い、ユーザー体験を高める一助としている。これらは中国の企業が学ぶべきものである。

その後凸版印刷を訪れた。元々は普通の印刷会社だと思っていたが、同社は印刷にハイテクさをもたらしていた。彼らは雑誌やパッケージの他、液晶パネルといったハイテクサービス、さらにソリューションの提供など一貫サービスを行っている。これには、企業を長く存続させるためには時代の流れを見極め、事業を拡大していくことが必要なのだと思う。

この点については住友商事も同様であった。約400年の歴史を有する住友グループの一員である住友商事はそれぞれの時代において革新を続け、新たな分野に挑んでいる。現在は環境保全が主流であるため、同社は新エネルギーの発展に力を入れている。私はこれに同社の独特な戦略眼を強く感じた。そして、長く存続するためにすべきことはまず自発的な変化であることを知った。

**日 付： 6月2日（土）【5日目】**

**大学名： 清華大学**

**氏 名： 劉繆詩棋**

昨日、中島さんから、元気よくホームステイの日を迎えるためにしっかりと休むようお話があった。だがホームステイはこれまでのようにスケジュールに従う必要はないため、きっと楽だろうと思っていた私は、その言葉にあまり納得はしていなかった。しかし実際にホームステイが始まり、関係のぎこちなさや習慣的な違いはとても悩ましいものだとということに初めて気付かされた。

私のホストファミリーはテルモの山本さん一家であった。エレベーターでは各階のボタンを押したり、デパートでは玩具が欲しくて駄々をこねたりとお子さんは丁度やんちゃな年頃であった。それでもこの二人のお子さんが、突然やって来た私に対して心から良くしてくれたことには驚かされた。

4歳の息子さんは私を誘って一緒にお団子を食べ、1歳の娘さんは口数が少ないものの、常に私に笑顔を見せてくれた。彼らのやんちゃぶり、そしてこうした感動的な場面、私はその瞬間子どもに対する父母の気持ちが分かった気がした。「疲れても楽しい」とはこういうことを言うのだろう。

文化や習慣は違っても感情は相通じるものがある。人と人との交流は実に面白いものと思った。

**日 付： 6月2日（土）【5日目】**

**大学名： 中国人民大学**

**氏 名： 孫震**

ホームステイの一日。

ホストファミリーとの最初の目的地は浅草寺で、浅草寺では訪日団の他のメンバーとも顔を合わせた。そして郷に入っては郷に従えということで、正式な作法でお参りをした。その後のおみくじでは皆が吉をひく中、自分だけが凶だったが、これもまた別の意味での幸せだと思うことにした。

東京都庁は40階建てで、最上階からは東京タワーやスカイツリーなどの姿をはっきりと見る事ができた。夜は広島風お好み焼きでとても美味しかった。ホストファミリーのお宅では子どもと遊んだりした。言葉こそ通じないものの心が通い合っていて、多少の英語と身振り手振りを交えての交流もまた一味違う楽しさがあった。

この他、さらに日本の銭湯も体験したが、中国に昔からある風呂屋とほとんど変わりはなく、懐かしさを感じた。

**日 付： 6月2日（土）【5日目】**



**大学名：北京語言大学**

**氏名：邱侶萍**

今日はホームステイの初日で、また日本に来てから最も楽しい一日であった。

朝、前原さんと奥さんそして息子さんは早くから私を迎えに来た。その後まず浅草寺に行き、おみくじでは最も縁起が悪いとされる「大凶」を引いたが、それからの一日はとても幸運に恵まれたものであった。

浅草寺の見学の後、私たちは千葉県のコストファミリー宅へ向かった。東京でみる光景とは異なり、ここはすべて一戸建ての家屋であった。また生活のリズムもゆったりとし快適であった。その後私がラーメン好きだと聞いた前原さんがお昼に私をラーメン屋に連れて行ってくれた。食後に帰宅し娘さんの帰りを待って出かけることになり、前原さんがソファで休んでもいいとのことだったので、私は少し休むつもりで横になったのだが、なんと2時間半も寝てしまった。しかし娘さんを含めたコストファミリーは私が目を覚ますのを待っていてくれた。これにはお邪魔したばかりで失礼なことをしてしまったと思ったが、彼らは機嫌を悪くすることはまったくなく、逆に私に理解を示してくれた。

夕食の際は、お姉さんとその旦那さんも私を歓迎すべくコストファミリー宅を訪れた。そして皆で焼き肉を食べ家族の感覚を味わった。それから夕食後にテレビを見ていたら突然部屋の電気が消え、誕生日の歌とともにバースデーケーキが運ばれてきた。何と彼らは前倒しで私の誕生日を祝ってくれたのである。今日初めて会ったコストファミリーが私にこれほど良くしてくれたのには本当に感動した。異国のこの地では沢山の感動があった。感謝している。

**日付：6月2日（土）【5日目】**

**大学名：外交学院**

**氏名：盛悦**

ついにこの日がやってきた。出発の前から重山さんや直美さんとはメールでやりとりをしていたが、今日ついに会うことができる。朝早くに私たちはホールに集まり、緊張と期待が入り混じった気持ちでコストファミリーの出迎えを待っていた。事前に写真を見ていたことから、私は彼らの姿をすぐに見つけることができ、名前が呼ばれた私は興奮のあまり飛び出した。今日は直美さんとの観光となり、重山さんは準備のため一足早く帰宅した。私たちはまず東京タワーに向かい、青空の下東京全体が眼下に広がり、解説員のお話と共に、かつてドラマで見た様々な景観を目にすることができた。

上野公園の不忍池はすでに蓮の葉で一杯であったが蓮の花はもう暫くかかりそうであった。小舟が漂う様子を見ながら、風が吹き付けると涼しさを感じた。その後上野公園から徒歩で日本の最高学府を訪れた。驚いたのは東京大学の建物はヨーロッパの教会のようなスタイルで、キャンパスの中では中世のヨーロッパにタイムスリップしたような感じがした。

コストファミリー宅は東京近郊の川崎市にあり、JRで30分ほどの距離である。直美さん曰く、都内で働く若者の多くは川崎に住んでいて毎日JRで往復しているとのこと、北京の北西にある昌平区で生活している私たちと似ていると思った。

重山さんや直美さんとのふれあいでは心配していた堅苦しさは全くなく、私たちは沢山の話をし、さらに日本の「体操」をしながらテレビを見たり、キャッチボールをしたりと時間はあっという間に流れ、名残惜しさが感じられた。

明日は重山さんのバイクで海辺に行く。とても楽しみである。

**日付：6月3日（日）【6日目】**

**大学名：清華大学**

**氏名：羅睿**

私のコストファミリーがわざわざ手作り寿司のパーティーを開いてくれたのにはとても感動した。海苔で米や魚を巻

いて醤油やわさびをつけて食べた。さらに彼らは私の誕生日が近いことを知り、バースデーケーキを準備してくれた。崎田さん宅での昨夜は最も早く、またぐっすり眠れた一晩であった。

崎田さんとの交流での収穫は、日本経済についてより深い知識が得られたことである。日本経済の中核は三菱、三井、京セラといったメーカーで、それぞれの従来の事業において尽力すると同時に技術革新や応用革新をめざす。こうした経験の基礎や技術特許を有する発展モデルはとてもしっかりとしたもので、日本の実体経済を日々強化し、さらに日本の国民経済の発展を支えている。一方中国は基礎技術の開発や進化に力を入れておらず、不動産産業や「インターネット+」に依存してGDPを高めている。だが私は「インターネット+」はモデル的な革新であり、インターネット経済と実体経済の融合は生活の利便性向上を促進するものであるが、国民経済を成長させるものではないと思う。

**日 付： 6月3日 (日) 【6日目】**

**大学名： 清華大学**

**氏 名： 盧宇芳**

今日はホームステイの二日目、普段の団体行動での詰まったスケジュールとは異なり、私は日本の一般家庭のリラックスした週末を体験したいと思っていた。朝5時すぎホストファミリーの二人のお子さんが目を覚まし、それから朝食を済ませた後、私たちは水族館を見学した。水族館は海から近く、私は今回初めて海を目にした。海辺の木陰では沢山の家族がピクニックをしていた。彼らは自然がとても好きで、海辺で蟹を捕まえたり、芝生の上で寝そべり陽の光を浴びたりと自然に溶け込んでいるかのようであった。

それ以外にも一つ印象深い出来事があった。水族館内のファストフード店を通りがかった際、ホストファミリーの3歳の息子さんがお腹がすいたと言ったが、ホストファザーは私に特色ある日本の食べ物を沢山体験してもらうため息子さんには食べ物を買ってあげて、その後私たちはそばを食べに行った。実際ファストフード店でお昼を済ませてもよかったのだが、こうした彼らの私への思いやりにはとても感動した。

夜は自由行動の時間で、私は先輩と銀座へ行き、そこのラーメン屋でラーメンを食べた。多くの人にとっては疲れた一日を終えた後ここにきて熱々のラーメンを食べることが幸せのひとつそしてリアルな生活なのだろうと思った。

**日 付： 6月3日 (日) 【6日目】**

**大学名： 对外経済貿易大学**

**氏 名： 曾欣**

ホームステイ二日目。

初日の夜はホストファミリー宅でホストマザーが作ったカレーとアボカドサラダそしてキノコのクリームシチューを食べ幸せな一晩だったが、その中で一つ印象深い出来事があった。自分が寝る部屋に蚊がいることに気付いたところ、彼らは懸命に蚊を探してくれたのである。これにはとても感動した。

翌日は新宿で買い物をした。新宿は若者が集まる街であり、多くの若者が遊んだり洋服を買ったりしていた。そしてホストファミリーとドッグカフェに行った。そこの秋田犬はとても凛々しく、首には緑や赤のスカーフをしていた。

夜の自由行動の時間は秋葉原に行った。そこは本当にアニメ好きの聖地であり、沢山のフィギュアのお店があった。

**日 付： 6月3日 (日) 【6日目】**

**大学名： 首都医科大学**

**氏 名： 孫立瑩**

ホストファミリーは私のこれまでのスケジュールを知った後、私の身体を気遣い、私を起こすことはせず、8時半に私が目を覚ましてから朝食をとった。これには家族の温かみを感じた。

その後私たちはまずおばあさん宅の小さな農場に向かった。ここではトマトやきゅうり、ねぎ、豆、ピーマン、唐辛子、とうもろこし、スイカなどが栽培されていた。畑自体は大きくはないため、それぞれの作物は2~3つだけ栽培されていたが、おばあさんはさらにカスミソウやユリの花を植えるなどとても趣のある生活をしていた。私の故郷でも農民はこうした労働に従事しているため、これらの作物や環境は私にとってはとても馴染み深かった。

その後私たちは東京の観光バスに乗り東京を見物し、さらに銀座でアイスクリームを食べた。ホストファミリーからは至れり尽くせりのお世話を受け、また日本の文化を間近で体験させてくれたことで私は日本についてより深く知ることができた。

将来改めて阿字地さんご家族と再会できることと同時に、彼らの健康と幸せを願っている。

## 日 付： 6月3日（日）【6日目】

大学名： 外交学院

氏 名： 範伯陽

今日の朝、目を覚ました私はまず河尻さん宅の庭からこの静かな町を観察した。朝食時は中国と日本の大学入試制度の違いなどについて話をし、食後河尻さんは私がずっと行きたかった池袋西口公園に私を連れてきてくれた。石田衣良の手によりそこは青春と男気に満ちた場所となっていたが、実際は想像していたほど大きくはなかった。西口公園を離れ私たちは近くのサンシャインシティ(小説でよく登場する場所)を訪れた。期待していたほどではなかったが、ある意味聖地の巡礼であった。

その後私たちは東京大学を訪れ、そこで私は東大の文字が入ったサインペンを買った。その後は銀座に行き、河尻さんからプレゼントとしてタオルを買っていただいた。そしてホテルに戻りお別れとなった。名残惜しかったが河尻さん一家に感謝を伝え、プレゼントを贈った。

その後は自由行動となり、私は渋谷と新宿のブックオフに行き7000円で200冊の本を買いとても満足できた。

## 日 付： 6月4日（月）【7日目】

大学名： 中国人民大学

氏 名： 徐怡雯

今日は最終日の前日でこれまでと異なる体験をすることができた。

三井住友銀行の見学を終え、私たちは今回の企業訪問をほぼ終えたが、日本の企業のグローバル化の進展ぶりには驚かずにはいられなかった。彼らは自身の世界各地における影響力を常に高めているが、こうした点は学ぶべきだと思った。それと同時に日本企業のグローバル人材への需要も強く感じた。彼らは新たな力の加入に期待している。

大使館での交流では学生達からこの数日間の感想などが発表され、私たちは交流を楽しむと同時に、こうした文化的違いについての相互の理解や意思疎通そして共感がよりされていくことを願っている。私たち大学生は日中の友好交流における基盤であり、日本の優れた部分を学ぶと同時に中国の新たな姿を伝えることはとても素晴らしいことだと思う。

早稲田大学は私の興味を引いたとてもユニークな大学であった。早稲田の学生はとても話し上手で自己アピールに長けていた。ただ不思議に思ったのはこの一部の学生は英語を話さないどころか聞き取ることもできないことであった。私がある理由を訊ねたところ返ってきた答えは、試験においてはヒアリングやスピーキングは求められていないからとのことであった。中国の大学では英語のヒアリングとスピーキングは成績において大きな割合を占めていることか

ら、私たちはこうした返答には驚かされた。討論の際私たちはキャリア構築と日頃の趣味について意見交換をした。この学生は修士課程については重要とは考えておらず、学部を卒業後に自分の就きたい仕事を探すことに比重を置いている。また彼らはスポーツ好きで勉強オンリーについては賛同していない。彼らは未来への希望や期待に満ちていて、私は彼らのそうした情熱が気に入った。

**日 付： 6月4日（月）【7日目】**

**大学名： 北京語言大学**

**氏 名： 艾力亜斯・肉孜**

今日は朝から三井住友銀行の見学であった。そこは三井住友銀行の本社であったことから、建物の外観の立派さにまず驚かされた。その後同銀行についての解説を聞き、さらに驚かされた。銀行での見学を終え、私たちは日比谷松本楼での昼食となった。ここは中国の近代史特に偉大な革命家の孫中山氏と関わりがある場所で、私たちは食事をとりながら日本滞在時期における孫中山氏の活動ぶりについてのお話を拝聴した。

その後、私たちは中国大使館へ向かい、そこでは参事官との交流を行った。また各大学の代表者から日本でのこの数日間における感想の発表があり、とても有意義であった。

大使館の後は、二つめの大学訪問として早稲田大学を訪れた。期待と好奇心を胸に早稲田大学に到着し車を降りた瞬間、憧れていた早稲田大学が目の前にあることに私は驚き呆けてしまった。そしてこの時すべてのものが目新しく感じられた。

教員の案内の下で討論会場に到着した私たちは事前に決められたグループに分かれた。そして私たちは4人の早稲田の学生と交流をすることになった。討論のテーマは「卒業後のキャリア構築」、「日頃の趣味」で、各自が意見を述べ合った。その後私は自分たちのグループを代表して皆の前で総括を行った。夕食の際は会場が私たちと早稲田の学生の笑い声に包まれた。

とても有意義な一日であった。

時間が止まればいいのと思った。

**日 付： 6月5日（火）【8日目】**

**大学名： 对外經濟貿易大学**

**氏 名： 荀潔星**

今日は日本での最終日で間もなく北京に戻るようになるが、とても名残惜しい気分である。

次に日本を訪れるのがいつになるのかは分からない。或いは東京オリンピックかもしれないし、長い年月が経った後に自分の妻と一緒に来るかもしれないが、今この時私は「I Love Tokyo」と言いたい。

最終日とは言え、私たちのスケジュールは当然ながら充実していた。朝にはホテルニューオータニのエコ施設を見学した。優れたホテルにとっては、上質なサービス以外にも自然との共存が重要である。私たちはさらにホテルの発電施設や水の循環システム、そしてゴミ処理システムを見学したが、これほど大規模な設備は見たことがなかったのでテンションが上がった。今回私はホテルの運営の裏側において必要なものについて初めて知ることができた。

次いで歓送会が開かれ、ホストファミリーの方々も私たちとお別れをするために会場に駆けつけてくれた。北京語言大学の先輩が『日本舞踊』を披露し、私たちは『銀の龍の背に乗って』を合唱した。

Good Bye, Tokyo, I will miss you.

**日 付： 6月5日（火）【8日目】**

**大学名： 首都医科大学**

**氏 名： 余夢潔**

今日は最終日。

午前私たちはホテルニューオータニ地下の発電設備や浄水システムそしてゴミ処理システムなどを見学した。私たちは同ホテルで三泊したが、地下にこうした施設があるとは知らなかった。その後スタッフの解説により、これらのシステムの作動原理を概ね知ることができた。また日本では多くの団地にもこうした処理設備があるという話を聞き、日本の環境への配慮の姿勢に驚いたが、意外だったのはホテルニューオータニの様なサービス業においても日本の大企業と同じ社会的責任感を持っていることであった。日本には環境理念が浸透していない業界があるのだろうか？

時間が経つのは早く、あっという間に帰国の時が訪れた。お昼の歓送会では私のホストファミリーは来られなかったが、その他の団員が彼らのホストファミリーとお別れをしている場面はやはり感動的であった。わずか二日間の付き合いで私たちには深い感情が育まれた。これは遠く離れていても私たちを繋ぐものとして、いつの日か私たちを引き合わせてくれるものだと信じている。

**日 付： 6月5日（火）【8日目】**

**大学名： 外交学院**

**氏 名： 劉知雨**

今日は訪日活動の最終日で、午前は荷造りを済ませた後、ホテルニューオータニのスタッフの案内の下、ホテルのエコ施設を見学した。ホテルニューオータニについては清潔で美しいという印象があった。私たちは発電施設で同ホテル独特の省エネ技術について学んだ。その後汚水とゴミの処理システムを見学したが、特に印象深かったのは樽を使った汚水の浄化で、この樽は水質を汚染しないように一本の釘も使われておらず、特殊な木材で作られている。エコ施設の見学の後は日本庭園を訪れた。歓送会は忘れ難いものとなった。私の本来のホストファミリーの急な事情により、今回私は別のホストファミリーのお世話になったが、その本来のホストファミリーの山本さんがわざわざ歓送会に足を運んでくれたのである。山本さんは典型的な日本美人で、私は彼女の美しさに驚くと同時にその心遣いにとっても感動させられた。